

全買連ニュースレター 第7号

ZENBAIREN News Letter

2018/1/12

文責、事務局長草野



明けましておめでとうございます。

本年も全買連へのご支援の程

よろしく申し上げます。

2018.1.1

全国の活動より

— 徳島発 —

徳島県木材買方協同組合では、毎年、児童木工工作「木とふれあうコンクール」を実施しておりますが、2017年度第9回は、44校の小学校が参加しました。9月24日に審査会が行われた結果、県知事賞ほか20点の優秀作品が決まり10月21日から22日まで展示され22日に表彰式が行われました。

このコンクールでは、全買連会長賞を贈呈しており下記の2作品が授与しました。

- ①加茂名南小学校 3学年 楠渕未来（くしぶち みく）さん 神社のお道具箱 写真左
- ①新開小学校 3学年 志賀奏音（しが かのん）君 ねこの形のいす 写真右



一東京発一

東京木材市場買方組合東友会が多摩産材利用拡大フェア展示会に出展

東京木材市場買方組合（早川金光理事長）の若手の集まりである東友会が多摩産材利用拡大フェア展示会に出展しました。このフェアは東京都農林水産振興財団の呼びかけに応じた建築資材や家具・什器など多摩産材製品を取扱う事業者27事業者が出展したものです。

フェアは12月12、13日に開催され、建材関係、自治体関係などの600余名の来場者がありました。また多くの教育関係者の来場が見受けられました

東友会は、オフィス・各種移設建築や家具・什器など非住宅への利用拡大をターゲットに東京都森林組合と共同出展し、多摩地区の森林や伐採の様子、原木市場、製材加工、木材市場、材の活用事例などをDVD映像と360°VR映像を駆使し、川上から川下までの流通過程を放映し多摩産材が安心安全な木材であることをPRしたほか、木材の被写体認識アプリを使ったパフォーマンスを展示しました。これは、NECさんと共同開発中の被写体認証アプリで、あらかじめ登録した木片をタブレットで撮影するとその木片の樹種名や樹種特性、用途、産地情報が瞬時に検索できる、木片に書いた「樺」や「梯梧」などの木にまつわる漢字の読み方や花、歌が出てくるといいうわゆるIoTの一種です。DVDビデオはチェーンソー伐倒や製材所の音が来場者をひきつけ、VRはまるで森の中にいるみたいな感覚を多くの方に体験していただきました。木材の被写体認識アプリは、まだ開発途上ですが今後、木育ツールとしてあるいは商品検索に活用出来るなど大きな可能性を持っています。

この展示会を通じ、木材利用の拡大には川上から川下の連携が重要である事、木材流通業界も新たな技術を駆使してエンドユーザーとのつながりを強めることが不可欠であることが改めて確認できました。東友会は、1月30、31日に行われるモクコレにも上下流・加工連携の展示を行うことになっております。都買連（全買連）事務局は木材利用推進の観点から東友会と一緒に活動しています。



木材画像認識アプリ

まるで森の中にいるみたいなVR映像

全買連の動き

1. 大阪木材仲買協同組合創立70周年記念式典・祝賀会に出席

11月9日大阪木材仲買協同組合の創立70周年記念式典・祝賀会が大阪市リーガルロイヤルホテルにおいて422名が出席して開催され、全買連から早川会長、草野事務局長が出席しました。

記念式典では、宇田理事長挨拶の後、林野庁長官、大阪府知事、理事長感謝状の贈呈が行われたあと来賓祝辞があり、祝賀会となりました。70年の長きにわたり大阪木材業界の発展に貢献された大阪木材仲買協同組合の節目の年にふさわしい盛大な式典・祝賀会となりました。

なお、表彰式では全買連会長の推薦により大和秀樹様と上田正紀様が林野庁長官感謝状を贈呈されました。



全買連関係出席者



林野庁長官感謝状贈呈

2. 木材を利用した学校施設づくり講習会を受講

文科省が主催し林野庁が後援して開催された「木材を利用した学校施設づくり講習会と現地視察」に事務局長が参加しました。

これは2009年から毎年行われており、今年は、熊本、広島でも行われましたが東京会場は日本教育会館での講習と茨城県潮来市の潮来小学校の視察が行われました。

木材は、建築物の部材として、自然素材の柔らかで温かみのある感触、室内の温度変化を緩和させるなど快適性を高める優れた性質があります。学校施設への木材利用は豊かな教育環境づくりを進める上で大きな効果が期待できます。一方、建築方法、木材調達、コスト、流通システム等の課題もあります。これら各種の問題を解決するため地方公共団体や木材関連業界、設計者等による施設を視察しながらの木材利用を活用した学校施設づくりを推進する目的で開催されたものです。

視察した潮来小学校は平成24年4月に完成したRC造・木造2階建てで「工期が短い」「県産材の使用」「予算の制約」などの課題を克服して、学校という大きな施設にもかかわらず普通に流通している木材を使い、住宅などを造っている一般の大工さんでも施工できるように設計の段階から知恵を絞り工夫されて特殊材や特殊建築を使わないスタンダードな木造校舎なの特徴です。

木材は株式会社茨城木材市場（水戸市）から調達されたとのことでした。



左 RC造 右 木造



流通している長さの材を使った
木製張弦トラスト



2階多目的室



大きなヒノキの丸柱がある
多目的スペース

編集後記



イヌシデの種苞

今年は戌年「戌笑う」といって景気の良い年とされています。そのような一年になることを願っております。

樹木の中にイヌの付く樹種があります。思いつくものを上げてみるとイヌブナ（ブナ）、イヌシデ（クマシデなど）、イヌザンショウ（サンショウ）、イヌツゲ（ツゲ）、イヌビワ（ビワ）、

イヌマキ（コウヤマキなど）、イヌガヤ（カヤ）イヌガシ（シラカシなど）、イヌザクラ（ヤマザクラなど）これを見ると「イヌ」は本物に比べて「劣る」とか「役立たない」の意味合いが強いようです。番犬や猟犬そしてペットのイヌから見ると失礼な言い回しかもしれません。

その中でも、イヌシデは、カバノキ科の落葉広葉樹で種を遠くへ飛ばす役目をもつ翼を持った種苞が玉串や注連縄に垂らす紙（四手）のような様子に見える木です。漢字では犬四手と表します。今年、戌年なので目出度い木として注目されるでしょうか。皆様のご多幸ご健勝をお祈りします。

今年も不定期ですが全買連ニュース継続します。地方の投稿お待ちしております。